

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 商業 科目 課題研究(消費者行動探究)

教科： 商業 科目： 課題研究(消費者行動探究) 単位数： 3 単位
対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組
使用教科書：（ なし ）

専門書の例：松井剛「いまさら聞けないマーケティングの基本のはなし」河出書房新社 など

教科 商業 の目標：

- 【知識及び技能】 商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 課題研究(消費者行動探究) の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
消費者行動論に関する諸概念	消費者行動論の諸概念を用いて課題の発見と解決を図る力。 創造的に考え、論理的にまとめる能力。	主体的かつ協働的に取り組む態度

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	オリエンテーション 研究の進め方のガイダンス						2
	【知識・技能】 専門書講読	・消費者行動論の専門概念について、専門書を講読して理解する。	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	33
	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 調べ学習	・専門概念について、具体例を調べる。 ・一人1台端末の活用	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	
	【思考・判断・表現】 【主体性】 グループワーク	・具体例が妥当か否か、グループワークを通じて検討させる。 ・グループで共有した内容を発表を通じて講座全体で共有する。 ・一人1台端末の活用	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	
2 学 期	【知識・技能】 専門書講読	・消費者行動論の専門概念について、専門書を講読して理解する。	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	40
	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 調べ学習	・専門概念について、具体例を調べる。 ・一人1台端末の活用	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	
	【思考・判断・表現】 【主体性】 グループワーク	・具体例が妥当か否か、グループワークを通じて検討させる。 ・グループで共有した内容を発表を通じて講座全体で共有する。 ・一人1台端末の活用	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	
3 学 期	【知識・技能】 専門書講読	・消費者行動論の専門概念について、専門書を講読して理解する。	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	30
	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 調べ学習	・専門概念について、具体例を調べる。 ・一人1台端末の活用	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	
	【思考・判断・表現】 【主体性】 グループワーク	・具体例が妥当か否か、グループワークを通じて検討させる。 ・グループで共有した内容を発表を通じて講座全体で共有する。 ・一人1台端末の活用	課題・成果物の評価規準 A 十分に満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。 B おおむね満足できる適切な内容である。 C 不十分な部分もあるが、適切な内容である。 D 不十分であり、今後の努力を要する。	○	○	○	